

研究タイトル:

地域資源としての高齢者施設に関する研究

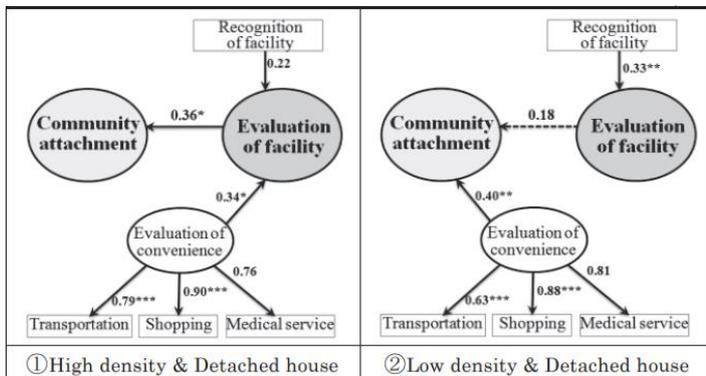


氏名:	崔 熙元 / CHOI Heewon	E-mail:	choi@oyama-ct.ac.jp
職名:	講師	学位:	博士(工学)
所属学会・協会:	日本建築学会、交通工学研究会		
キーワード:	高齢者施設、建築計画、限界集落、意識構造分析、コミュニティバス		
技術相談 提供可能技術:	<ul style="list-style-type: none"> ・地域分析 ・施設計画(高齢者施設) ・施設・地域に対する意識調査・分析 		

研究内容: 地域資源としての高齢者施設の計画論と地域分析

高齢者施設のこれからの役割は？

高齢化が進む日本社会において、高齢者施設は、限られた年齢層や需要層のためのものに過ぎないのでしょうか。2025年には高齢化率が30%と予想されており、2040年からは今まで長年増加し続けてきた高齢者の人口が減少する新しい時代に突入が見込まれています。これからはこのような社会的状況を考慮した新しい視点が、高齢者施設計画に求められています。そこで、主に、高齢者施設の計画の根拠を、高齢者のニーズ(Internal needs)に注目してきた既存の研究方法から、視点を変え、地域社会における施設の存在意義からアプローチしました(Social needs)。特に、高齢者施設が、立地する周辺地域(地域住民)に及ぼす影響に着目して、研究を進めています。仮説は、高齢者施設の、地域資源としての可能性です。



(「施設に対する意識が地域に対する意識の形成にどのような影響を及ぼすか」に関する研究結果の例。施設に対する意識が、住民の地域愛着の形成に有効に働くことが明らかになりました。またその関係性が、施設が立地する周辺環境によって異なることが明らかになりました。)

現在は、施設と地域の物理的な接点となっているアプローチ空間の活用方法について多様な分析方法で研究を進める一方で、各地域の様々な状況に適した施設計画の在り方について探るため、地域分析を通して、各地域が抱えている課題を定量的に測るための方法を検討しています。

researchmap: https://researchmap.jp/Stigma_choi

研究紀要: -

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)